今月の川柳

白雲流れる青空に真っ赤に映える紅葉。古里のこの美しい風趣を素直に絵にすることが出来たらと思う。

この感動をしっかりと心のキャンバスに描いておこう。

紅葉に心も染めて
身を癒す

八女川柳会　安達　昇

今月の色

茜色（あかねいろ）

茜色　「あかね」の語源は山野に自生していた蔓草の赤い根。「あかねさす」といえば、日の光で赤く色づく様子の形容であり、紫にかかる枕詞にもなっています。

視覚デザイン研究所
「和の色のものがたり」より

つるべ落しの秋の日が西の空を赤く染めて暮れる季節になると～茜の空で誓った恋を東京暮らしで忘れたか～松村和子唄う「帰ってこいよ」の力強い歌声が浮かんでくる。虫がすだいて月が冴える晩などテレビと読書では心の空虚をみたしきれず悶悶とした夜を過ごしたことがある。

白玉の歯にしみとほる秋の夜の酒は静かに飲むべかりけり（若山牧水）。酒と旅をこよなく愛した歌人はこんな夜何を思って飲んだのだろう。ピンと張りつめた冷えた大気が人の感性を刺激するのか、秋は人恋しさが募る季節である。

◆「今月の色」原稿募集。　皆さんの心に残る色とそれにまつわる思い出を300字以内にまとめて（株）東兄弟迄お送り下さい。住所・氏名・電話番号明記。よければ顔写真添付。

秋の電話

深町　準之助

もしもし
元気？
大丈夫？
訊かれて返事も
なんだか頼りない
だって　元気ってのがどうもね
よくわからないんだ
どこまでが元気で
どこからが不元気なのか
こころか　からだか　問題は
考えるだけで
くたびれるのだから
年を取るのは考えもんだ
と云ってもね
……
もしもし
あー　元気だ！
大丈夫だよ！
そう云って　ほんとうに大丈夫
（あしたは眼科か
それとも歯科か）
ツバメが去って
はや
季節は秋である

街かど gallery

立花町山崎
山田　富紀子

「え、何これ」。十数年前に苺の押し花絵を見た時の感動は今でも忘れられません。

子供の頃から植物が好きで、近所の方から植物図鑑を借りて名前を覚えたものです。

苺の押し花絵を見た頃、たまたま押し花教室の生徒募集があり、早速習い始めました。最初は片っ端から花を採集したのですが、何をどう使うのか解らず、先生に手取り足取り教えていただき、今に至っています。

先生のご指導の御蔭でどうにか作品になっていますが、まだまだ未熟で納得のいく作品は出来ません。これからも、先生、仲間の皆さんと仲良く楽しく続けて行きたいと思っています。宜しくお願いします。

八女学院中学１年
川﨑琴葉さんの模写
坂本繁二郎先生の『能面と鼓の胴』

11月３日の「帰居祭」のために、今年も画塾にポスターに使う坂本先生の絵の模写画の依頼があり、６月から８月までかかってこの作品ができあがりました。

坂本先生 80 歳のとき（昭和 27 年）の油彩画「能面と鼓の胴」（F10 号）の部分模写です。原画は坂本先生の能面シリーズの最後のころの最も優れた作品といわれています。クレパスでの模写です。重ねたクレパスをナイフで削り、さらに色を重ねると想定外の色が出現します。

その美を、読書・演劇好きの琴葉さんは、充分感得してくれたと思っています。

杉山絵の教室　杉山　亞土

矢部川源流・杣の里の四季　㊾
スズムシバナ（鈴虫花）[キツネノマゴ科]

矢部村では９月、林の木陰に咲いている。午後になると花が萎むので午前中でないと開花した花を見ることが出来ない。和名はスズムシが鳴きはじめる頃に咲くということからきている。春に咲くラン科のスズムシソウは別種。

（黒木町）松尾　重根

阿蘇山の噴火に遭遇！　2015/09/14

一度はやってみたいと思っていた事がある。それは一日で朝日と夕日を体験する事です。今日は絶好のチャンス、早朝３時に阿蘇の俵山（1094 m）を目指してスタートした。

午前６時撮影ポイントの俵山峠展望台で、朝焼けが始まったが日の出の瞬間は雲の中に隠れて撮影できなかった。

登山は一本道でぐんぐん登ると左手に阿蘇方面が広がり、野の花を楽しみながら約２時間で山頂着となった。

到着と同時に誰かが叫んだ。「阿蘇山が爆発したぞ～！！」午前９時 43 分噴煙は 2000 m まで上昇し緊張が走る。これだけの噴火は 94 年以来で降灰は 60 キロ離れた筑後市でも観測されたそうだ。その後噴火は治まり安全を確認して下山となった。

下山後は車で西へ 80㎞移動し玉名市の小岱山（501 m）に１時間で再登頂、６時 20 分有明海に沈む、真っ赤な夕日を撮影して帰路についた。

「地球は動いている、阿蘇山は生きている」と実感する“長～い一日”が終わった。　八女文化連盟写真部　樋口　清人